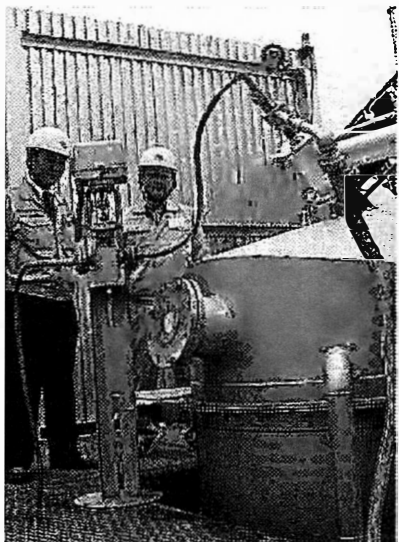


アスベストの 無害化を実験

牛久の溶融炉メーカー



牛久市の溶融炉メーカー「日本環境保全」(和田力社長)が、稲敷市内で小型溶融炉を使ってアスベストを高温で溶かし無害化する実験を行った。写真。県内のメーカーでは初めての技術といい、従来の炉に比べてコンパクトで処理コストも

低く抑えられるという。

11日に行われた実験では、約150キのアスベスト廃材を処理し、黒く細かいガラス状の物質になって排出された。同社によると、液状に溶かした後、水で一気に冷却しているのでアスベスト繊維が残っている可能性はない。

実験から約2週間後に、排出物の中に繊維が閉じこめられていないかを確認し、県に報告。安全が確認されれば、アスベスト用としても炉を販売していく。

同社は、燃料に水を混合させて一

450〜1800度の温度

を出せるバーナーを開発し、ダイオキシン類を出さない炉を販売していた。アスベストは1500度以上で無害化されるため、応用ができないかと実験を行った。環境省産業廃棄物課によると、全国でアスベストの溶融処理ができる施設は15か所。今夏をめどにアスベスト無害化技術についての大臣認定制度をスタートする。

引用)2006年4月19日 読売新聞朝刊(p.30)

ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用するには著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。

日本環境保全株式会社